

評議員、理事懇談会記録

日時 昭和56年12月21日(月) 18.00~19.00

場所 気象庁第一会議室

出席者 評議員：小林、清水、末広、高橋、畠山、増沢
常任理事：岸保、小平、浅井、荒井、内田、河村、黒木、竹内、二宮、松本、増田、村山

懇談事項

岸保理事長あいさつ

本日は、年末何かとお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

懇談事項といたしましては、学会の財政問題と来年に迫った100周年記念事業の進捗状況について報告させていただきますので、皆様から忌憚のないご意見を賜わり、有意義なる100周年としたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

1. 財政問題

荒井理事から、次のとおり説明が行われた。

(1) 昭和32年から56年までの会費の改訂経過、最近5年間の会員数の増加、および通常会員の約47%は気象庁職員であることについて報告を行なった。

来年度予算は、本年度とほぼ同様に組んだが、支部交付金は基本金を7万円から10万円とし会員1人当たり500円を700円に値上げしたため、約60万円の支出増になった。

(2) 100周年記念事業は、当初950万円を見込んだが、検討の結果、不足が認められたので1,050万円に増額した。

2. 100周年記念事業について

岸保理事長から次のとおり説明が行われた。

(1) 記念行事日程は、別紙(省略)のとおりであるが、講演者が1名未定である。

(2) 「天気」「気象集誌」の特別号については、順調に各担当者が準備を進めている。

(3) Regional Scientific Conference on Tropical meteorology については、10月末までは当学会が後援ということであったが、急に気象学会主催で、WMO、アメリカ気象学会は後援ということを実施するようWMOからの申し出で、学会としては引き受けることになり、気象庁にもお願いして後援してもらうことになり、この席を借りてお礼を申し述べたい。

目下WMOと折衝しているが、今年末か来月はじめにはインフォメーションを送りたい。

以上、1、2の説明に対し

経費、学会史、Tropical meteorologyの期日等について質問があり、そのほか式典招待者等についていろいろご意見をいただいた。

日本証券奨学財団からの昭和57年度研究調査助成募集について

日本証券奨学財団より、大学における個人またはグループの研究者に対する研究調査助成の募集がきています。

助成の対象部門は、法律学、経済学、社会学、理学および工学ですが、理学および工学については、エネルギー問題および環境問題に関するものが重視されています。

申請書提出期間は、昭和57年3月1日から4月末日までで、希望者は申請書用紙および詳しいことを下記担当

理事までお問い合わせ下さい。ただし、助成を受けられるのは、大学で研究に従事している者に限られている点に御注意下さい(なお、特に若く有為な研究者の発掘を考えているとのことです)。

記

(〒100) 東京都千代田区大手町 1-3-4

東京管区气象台 竹内 清秀
(TEL 03-212-8341 内 419)